

■スイミングにおける事件報道一覧

資料提供/体力健康新社:鶴谷道広

◇2009 年 9 月:盗撮

9月6日(日)、滋賀県彦根市の県立彦根総合運動場のスイミングセンターで開かれていた競技会で、滋賀県警彦根署は鳥取県中央病院の診療放射線技師意を県迷惑行為等防止条例違反の疑いで現行犯逮捕した。

特殊なビデオカメラでプールサイドにいた女子高生の水着を透かして撮影した疑いで、同署によると容疑を認めているという。水泳の競技会では、こうした輩(やから)を締め出すために10数年前から会場へのカメラ持ち込みには神経を尖らせているが、容疑者の職業が放射線技師(32歳)と分かり関係者はあきれるばかり！(クラブパートナー2009.10月号)

◇2010 年7月:強制わいせつ他

情けないスイミングスクールのインストラクターが児童買春・児童ポルノ禁止法違反や強制わいせつなどの疑いで大阪府警に逮捕された。7月15日、大阪府警少年課は神奈川県相模原市のスイミングスクールインストラクター・緒方亮容疑者(34歳)ら男5人を逮捕、送検したと発表した。容疑は平成17年8月から今年2月に、神奈川県内や大阪府内の民家などで当時6~16歳の小学生や高校生の男女6人にわいせつな行為をして、その様子をビデオカメラなどで撮影。撮影した画像をインターネット電話サービス「スカイプ」を通じて他人に提供した容疑。5人はネットの掲示板で知り合い、平成20年5月頃から大量のデータ送信が可能な「スカイプ」のファイル転送機能を使って男児のわいせつ画像をやりとりしていた。スカイプを悪用した児童ポルノ事件の摘発は全国初という。

子供たちを教育する立場の人間が起こした“情けない事件”に、容疑者を知る神奈川県の指導者たちは「本当に情けない」と口をそろえて激怒しているが、スイミングクラブの信用をおとしめた罪は大きい。(クラブパートナー2010.9月号)

◇2022 年 4 月:傷害容疑

岡山市のスイミングスクールで4月21日(木)、インストラクターが泳いでいる生徒に水筒を投げつけてケガをさせるという事件が起きた。山陽新聞とKSB瀬戸内海放送は4月27日(木)、次の記事を配信している。

スイミングスクールに通う男子小学生に水筒を投げつけ、けがをさせたとして、岡山西署は4月27日、傷害の疑いで、岡山市北区、スイミングインストラクターの男(36)を逮捕した。逮捕容疑は21日午後7時20分ごろ、同市内のスイミングスクールで指導中、プールで泳いでいた同市の10代の男子小学生にステンレス製の水筒を投げつけ頭に約1週間のけがを負わせたほか、この男子の頭をビート板で複数回たたいた疑い。「落とした水筒が頭に当たった」と容疑を否認している。同署によると、男子から22日に被害届が出され、捜査していた。経緯や動機

を調べている。男が勤務するスイミングスクールの運営会社は取材に「事実関係を確認しており、何も言える段階にない」とコメントした。

RSK 山陽放送は「21 日、岡山市のスイミングスクールで、泳いでいた小学生に水筒を投げつけるなどして頭にけがをさせたとして、インストラクターの男が逮捕されました。被害にあった小学生の父親が状況を語りました。」として被害にあった小学生の父親のコメントを次のように紹介した。

「約 800 グラムぐらいの水筒を、水泳中の上からコーチが頭に目がけて投げたんです。ショックで」傷害の疑いで逮捕されたのは、岡山市北区のスイミングインストラクター・松岡 大右 容疑者(36)です。警察によりますと松岡容疑者は、今月 21 日午後 7 時 20 分ごろ岡山市内のスイミングスクールで、泳いでいた男子小学生にステンレス製の水筒を投げつけるなどの暴行を加え頭に傷を負わせるなど、全治 1 週間のけがをさせた疑いがもたれています。

(被害にあった小学生の父親)「こういう状態になったので縫った。(けがをさせた後)救急車も呼ばず処置も何もせず、普段から殴る・罵声を浴びせる・蹴る・どつくのが普通だったんですけど。物もよく飛ぶのは見ていましたけど、ちょっと今回の場合は激しくやっているのではかなものかと」警察の調べに対し松岡容疑者は、「水筒を投げていませんが、落とした水筒が頭に当たってけがを負わせてしまった」などと容疑を否認しています。今回の事件についてスイミングスクールの関係者は「けさ聞いたばかりなのでクラブとして今はコメントできない。けがをした方におわびするしかない」と話しています。

◇2022 年。10 月:コーチがわいせつ事件で逮捕

埼玉県警越谷署は 10 月 25 日、強制わいせつの疑いで、越谷市宮前 1 丁目、会社員の男(57 歳)を逮捕した。逮捕容疑は 7 月 27 日午後 10 時半ごろ、越谷市内の公園駐車場に駐車した車内で、県内在住の 20 代女性の体を触るなどわいせつな行為をした疑い。同署によると、男は、被害女性が中学時代から通っているスポーツクラブのコーチで、これまでも犯行現場となった同駐車場まで女性を送迎していた。この日も練習後に同所まで送り届けた際、突然、女性の体を触り始めたという。10 月 3 日に女性が同署に届け出た。男は「(被害女性を)好きな気持ちが強くてムラムラしてしまった」と容疑を認めているという。

◇2022 年。10 月:スイミングのバス運転手が…

スイミングスクールの送迎バス内で、小学生の女子児童の太ももを触るなどのわいせつ行為をしたとして、神奈川県警秦野署は 10 月 24 日、バスを運転していた二宮町中里 2 の自称アルバイト、北原勝博容疑者(70)を強制わいせつの疑いで逮捕した。

北原容疑者は調べに対し、容疑を否認しているという。

逮捕容疑は 8 月 11 日午後 5 時 40 分～6 時 15 分ごろ、秦野市内を走行していたスイミングスクールの送迎用のマイクロバス内で、小学 2 年の女兒(7 歳)に対して太ももを触ったり、自身の股間を触らせたりするわいせつな行為をしたとしている。

同署によると、女兒は座席ではなく、運転席と助手席の間に座っていた。当時バスには他の児童も乗っていたという。女兒が「足を触られた」などと親に被害を申告し、同署が調べていた。

◇2023 年 4 月：最悪！女兒へのわいせつ事件

インターネット情報「週刊 FLASH 2023 年 5 月 2 日号」が伝えたセントラルスポーツ水泳指導員が「3 歳女兒」に強制わいせつで逮捕の報！

4 月 13 日、警視庁に逮捕されたのは、当該クラブで水泳指導員を務めていた、大学生の X 容疑者(20)だ。同容疑者はクラブ内の女子トイレの個室に女兒の A ちゃんを連れ込んで、わいせつ行為をはたらいたとみられている。

刑法上、13 歳未満の児童とのわいせつ行為には同意の有無に関係なく「強制わいせつ罪」が成立するが、A ちゃんは被害当時 3 歳。言語道断の犯行だが、今回、被害女兒の特定を避けるため、本誌は容疑者を実名報道することができない。

「娘が喘息にならないようにと、昨年秋からセントラルスポーツの水泳教室に通わせたんです。週 1 回のレッスンを本人は楽しんでたのに……。その気持ちを裏切って、こんなむごい行為をするなんて、許されるはずがありません」

こう胸中を明かしたのは、本誌の取材に応じてくれた A ちゃんの父親だ。娘をクラブに通わせた自責の念と、犯行への憤りが話しぶりからも強くうかがえる。

事件は、水泳のレッスン後に A ちゃんが一人だけ、プールから戻るのが遅かったことで発覚した。父親が続ける。

「2 月 22 日、レッスン後に着替えて出てくる娘を妻が待っていたら、ほかの子は姿を見せるなか、娘だけ 20 分後によやく出てきたんです。

いったいどうしたのか聞きました。すると娘は、『(パンツを下ろした)先生の“どじょうさん”をペロペロした』『苦くて、ペツとした』と言うのです。

我が家では、私が娘と一緒に風呂に入るときに男性器を“どじょうさん”と呼んでふざけていたことがあったので、たいへん驚きました。

『娘にとんでもないことをしやがった』と怒りが湧き、翌日 X 先生とクラブの店長を自宅に呼び出し、問いました。当初、X 先生は否定していましたが、店長は事実であることを察したのでしょう。下を向いて黙っていました」

じつは、着替え後に A ちゃんだけが遅く出てくる日は、その 2 週間前にもあったという。

A ちゃんの父親によれば、事態を重く見たクラブ側が、警視庁に報告。母親もすぐに被害届を提出した。

クラブ内にある防犯カメラには、A ちゃんを連れて女子トイレに入る X 容疑者の姿が映っていたという。しかし、逮捕は事件発覚から 1 カ月以上もたった 4 月 13 日。捜査の遅さに父親は X 容疑者が逃亡しないか心配したという。

「娘には、とにかく何事もなかったと思ってもらえるよう、今も同じクラブに通わせています。クラブ側も現在の指導には、相当配慮してくれています。

しかし、事件現場となったトイレの扉と同じ色のドアを見ると、まったく別の場所でも娘は固まってしまい『ここは入りたくない』と嫌がるようになりました。家のトイレでも、扉を閉めると怖がります。

私とお風呂に入ること怖がるようになり、私は下半身をタオルで隠すようにしました。娘には、嫌

なことをされたという記憶が残っているんです。これから、どうしたらいいかわかりません」
心労が重なった両親は精神科に通院しており、睡眠薬がないと眠れない状態だという。
事件の責任はX容疑者だけではなく、セントラルスポーツの運営管理にもあると、Aちゃんの父親は憤慨する。

「男性指導員が、当たり前のように女子トイレに出入りしていた。そんなことはあり得ないでしょう。それに男性指導員が女兒を連れて、トイレから20分も出てこないのに、周囲は何も思わなかったのでしょうか。」

『ほかの指導員は気づいていたのでは？』とまで疑ってしまいます。水泳教室を運営するのに適切な体制だったのか、あらためて考えてほしいと思います」

事件が起きたセントラルスポーツの当該クラブに取材を申し込んだが、まるで他人事のように、こう答えた。

「Xが逮捕されたことは知りません。詳細を把握していないので、何も申し上げることはありません。ただ、警察の捜査には協力します。Xが当クラブで働いていたかは、個人情報なので教えられません」

逮捕直前、X容疑者は事実関係を認めて、被害女兒の父親に電話で謝罪をしていた。本誌はその録音内容を実際に確認したが、X容疑者は謝罪と同時に犯行動機をこう述べていた。

《自分がやっちゃったのは、性癖というより、出来心でやっちゃいました》

《なんでこんなことになったのだろうって思います。警察に出されても、文句は言えないと思いました。自分の性癖というより欲求不満になっちゃって、本当に許されない行為をやっちゃいました》

週刊FLASH 2023年5月2日号

◇2023年4月：埼玉でコーチがわいせつ事件で逮捕

4月18日、22:10配信で『女兒の体触る コーチの男を強制わいせつ容疑で逮捕／埼玉県』と流れた。以下はその記事です。

——水泳の指導中に女子の体を複数回触るなどのわいせつな行為をとして、県警は18日、スイミングクラブに勤務する35歳のコーチの男を強制わいせつの疑いで逮捕しました。

逮捕されたのはさいたま市浦和区の森田匠容疑者(35)です。

浦和警察署によりますと、森田容疑者は去年12月中旬から下旬にかけて、女子児童1人の体を複数回触るなどした強制わいせつの疑いがもたれています。

ことし1月、女兒の母親から「12月に、娘がコーチに体を触られた」という内容の通報があり、自向け円がはっかくしたということです。

警察の調べに対し、森田容疑者は「スケベ心でさわったことに間違いない」と容疑を認めているということです。

◇2023年4月：愛知県警が兵庫の指導者を逮捕

今度は児童ポルノ容疑で逮捕だ。子どもを守ってあげなければいけない指導者が、性欲を満たすためにバカをやっている。立て続けにこんな連中が起す性被害の話。「どこのスイミングクラブにもその予備軍がいるかもしれない」と疑いたくなる。防止するには、その予備軍かも知れないスタッフに「なぜやっ

てはいけないか」を叩き込むことだ。時事通信は「水泳教室で女兒の裸撮影か 児童ポルノ容疑で男逮捕」と次のような配信をした。

着替え中の女子児童の画像を他人に提供したとして、愛知県警は 4 月 6 日、児童買春・ポルノ禁止法違反容疑で、スイミングスクールのインストラクター吉井一磨容疑者(48)＝兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋＝を逮捕した。「同じ性癖を持つ者同士で仲良くなりたかった。働いているスクールで撮影した」と容疑を認めているという。逮捕容疑は昨年 11～12 月、着替え中の 5～12 歳くらいの女子児童の裸の画像 2 点と動画 1 点を、通信アプリで大分市に住む元保育士の 20 代の男＝同法違反罪などで起訴＝に送信した疑い。県警少年課によると、吉井容疑者の携帯電話やタブレット端末には、多くの児童ポルノとみられる画像や動画が保存されていた。勤務先で撮影を繰り返していたとみられる。別の児童ポルノ事件で逮捕された元保育士の男の捜査で、吉井容疑者から画像や動画の提供を受けていたことが分かったという。

◆スイミングクラブにおける「わいせつ事件」をまとめようとしたが、事件の記憶は大量にあっても活字にしたものはごく僅かではなかった。年月不詳で付け加えると、次のような事件もある。

◇某クラブの強化合宿で、寝ていた小学 6 年生女兒の布団の中にコーチが潜り込んだ。女兒は県の強化選手。近隣のクラブに移籍した。

◇学校プールのスイミングクラブ。選手コースが終わり、高校生が更衣室で着替えをしているとスマホが目に入った。盗撮。高校生がフロントにスマホを持って行くと、「それ僕のです」とアルバイトの大学生が取りに来た。責任者は施設の責任者(学校の副校長)に相談し、スマホの動画を確認したが、その日の選手の着替えの動画しかなかった。もちろん、着替えのシーンを学生は見えない。初犯と判断し、アルバイトはクビ。警察沙汰にはせず、保護者達にも事件の事は通知しなかった。

⇒こうした報道は、実際に起きた事件のごく一部だろう。業界情報を発信する立場で言えば、多くの経営者と懇意にしていることから、一指導者のわいせつ事件であり、経営者に責任はなく、クラブ名を挙げて書くことでクラブの信用を落としては気の毒だとの意識が働く。その為、記事として取り上げないことが多い。以前は、指導中に「体に触った」「指導のために触れただけ」の論争が多かったが、最近は映像での事件が急激に多くなっている。「性癖」は外に出ない。経営者は、そうした性癖を持つ指導者を排除する方法がない。セントラルスポーツでの口淫事件は、女兒がそのままセントラル通いを続けていることから、セントラルとして事業所及び指導者の名前を挙げて会社としての報告が出来ない事態になっている。それを行えば、事業所名が分かり、女兒の名前がインターネットで晒されることを恐れてのことだ。こうした事件を消滅させるには、仕事に対する使命感を常に持つことだろう。生活のための収入を確保する場としてスイミングクラブが捉えられてい

るとすれば、いつまで経ってもこうした事件は無くならないだろう。